

事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年2月26日

事業所名 天使園（児童発達支援センター）

チェック項目		はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	23	1	0	・一人一人が広々とした空間で療育活動が できている。	
		95.8%	4.2%	0.0%		
	② 職員の配置数は適切である	24	0	0	・各クラスで協力して補っている。 ・各クラス基本的に3名ずつの職員。 ・足りていないところは、サポートしている。	・勤務体制等の検討を平成31年度に向け 検討しています。
		100.0%	0.0%	0.0%		
③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	24	0	0	・部屋、トイレなど絵で分かるようにあらわして いる。 ・バリアフリーとして、段差が少ない。 ・トイレ入り口に木の板を置き、混雑時の転 倒リスクを減らしている。 ・視覚支援など(写真、絵)	・子どもたちが見通しが持てるよう、構造化に 配慮している。活動においては自分たちで活 動が進められるように環境に配慮しながら主 体性を育てています。	
	100.0%	0.0%	0.0%			
④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子供たちの活動に合わせた空間となっている	23	1	0	・掃除機掛け、モップ掛けによる掃除を毎日 行っている。汚れた際は、アルコールや次亜 塩素酸ナトリウム液を使って掃除している。 ・朝夕の清掃に加え、毎週水曜日には全体 的な清掃チェックを行っている。活動環境に 関しても各クラスごとに子どもの特性に留意 している。 ・毎日の掃除を丁寧に言い、清潔に保たれ ている。		
	95.8%	4.2%	0.0%			
務改	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	20	3	1	・クラス単位で全体で共有できているのか？ ・事業計画の作成をし、実行後には反省会 を実施、次の活動に活かせるようにしてい る。 ・日々の振り返りを大切にしている。	・様々な内容においてPDCAサイクルは十分 でないため、その環境に対する配慮を今後 行っていきます。
		83.3%	12.5%	4.2%		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	24	0	0	・児童発達支援アンケートをはじめとし、行事 などの際にアンケート実施、集計し職員会で 報告し次回の改善に繋げている。また、保護 者会にて保護者にも改善点などの説明をして いる。 ・アンケートを実施している。 ・保護者に対しアンケートの実施をし参考に している。 ・アンケートを配布し、意向を把握し改善に 繋げている。	・平成30年10月に2回目を実施したが掲載 は行っていません。 ・個々の改善には繋げています。 ・平成31年2月に掲載予定をしています。
100.0%		0.0%	0.0%			
⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	20	4	0	・事業所内で情報の共有はしている。 ・次回2月末にHPにのせる予定。 ・年2回実施している。 ・年2回行い、結果も書面で保護者に伝えて いる。 ・これから公開できるように進めている。 ・これから公開しようとしている。 ・自己評価表をHPで公開してもいいと思う。	・平成30年12月に掲載予定であったが実施 できておらず、平成31年2月に掲載予定をし ています。	
	83.3%	16.7%	0.0%			

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	10	1	<ul style="list-style-type: none"> ・近いうち第三者評価を導入することも検討している。 ・幼児療育研修会などで外部からの評価をアンケートとしていただき、改善に努めている。 ・現在評価は受けていない。 	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーや社会性を学べる研修にも参加すると思っています。 ・県内外の研修に参加する機会を設けている。 ・どの職員にも満遍なく研修の機会を作っている。 ・数多くの研修へ行かせてもらい、職員会で出張報告をしている。 ・研修の機会は多く、自分自身勉強になることも多くある。 	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・新版K式発達検査、乳幼児発達経過表、ポータージプログラム、児童発達支援ガイドライン等を参考に作成。また、保育所保育指針も支援計画書に取り入れている。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児発達経過表の利用、新版K式発達検査の定期的な実施。 ・ポータージプログラムを用いて子どもの発達について確認できる仕組みになっている。 ・決められた書式を利用し、アセスメントをとる。 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画書に項目として明記している。 ・平成30年度児童発達支援計画書を参照。 ・各項目を入れ、具体的に支援内容を設定している。 	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日支援記録記入時に計画を確認している。 ・全職員、計画の作成に関わり、計画の中にポータージも取り入れてその内容に沿った支援を行い、記録を取っている。 	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	23	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日と、毎週水曜日の職員会議で考えている。 ・毎月、クラス職員で相談して決めている。 ・毎月季節を味わえるようなことを取り入れて協力して考えています。 ・クラス職員で話し合う時間を設けている。 ・職員間で情報を共有しながら活動プログラムの立案をしている。 	
			54.2%	41.7%	4.2%		
			95.8%	4.2%	0.0%		
			100.0%	0.0%	0.0%		
			100.0%	0.0%	0.0%		
			100.0%	0.0%	0.0%		
			95.8%	0.0%	4.2%		

⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・4クラスで面白い活動があったときは共有し、新しい取り組みを取り入れた際には負けじと企画ができています。 ・季節ごとにプログラムを変更、個別活動も材料をローテーションして利用。 ・週間日課を参照。 ・季節を感じられる活動も入れ、様々な活動を行えるようにしている。 ・個別療育については、子どもによる選択制を取り入れている。 	
		100.0%	0.0%	0.0%		
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別、集団共に計画の目標を基にした支援をしている。 	
		100.0%	0.0%	0.0%		
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	18	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスではできているが、全体で共有不足だと感じる。 ・朝礼にて予定や送迎、欠席、個別療育などの利用の伝達をしている。 ・なかなか職員がそろう時間がないため打ち合わせは出来ないことが多い。 ・朝礼後、リーダーが中心となって事前に決めている活動の準備をしている。 ・子どもたちの状況を見て、サブ職員が役割を分担している。 ・担当の子どもの気になること、こうなってほしいなどの思いをクラス職員で共有している。 	
		75.0%	25.0%	0.0%		
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	12	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスではできているが、全体で共有不足だと感じる。 ・終礼にてその日の振り返りを行っている。 ・なかなか職員がそろう時間がないため打ち合わせは出来ないことが多い。 ・必ずではない。 ・支援の改善点、反省点、気づいたことがあった際には話し合っている。 ・クラスなど気付きは職員間で話し、記入し保護者へ伝えている。 ・必ずではないが、クラス職員と出来事や困ったことを話して改善している。 ・必ずではないが、特に水曜日の支援終了後に話し合いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者全員が、共通した時間の話し合いを今まで以上に持てるように取り組んでいく。
		50.0%	50.0%	0.0%		
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿った記録。 ・支援記録の記入。 ・できている人とそうでない人がいる。 	
		95.8%	4.2%	0.0%		
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、半年に1回のモニタリングの際、直接保護者と面談する。 ・半年に1回モニタリングを行うとともに、支援計画の見直しを行い、次の計画に取り入れていく。 ・月3回の個別療育では保護者の方にも来園して頂き、発達に応じた話し合いを実施している。 	
		95.8%	4.2%	0.0%		
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしいものが参加している	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの職員で情報をしっかり共有しているため、子どもの状況には精通できている。 ・その時々で対応するにふさわしい職員が参加している。 	
		95.8%	4.2%	0.0%		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	②② 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	22	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから連絡し、連携をしている。 ・地域の保健センターや子ども総合相談センターなどと情報を共有し家庭への支援を行っている。 ・他機関しか知らない情報があつたりするため、情報の共有は力を入れるところ。 	
		91.7%	8.3%	0.0%		
	②③ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	20	1	3		
		83.3%	4.2%	12.5%		
	②④ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	19	2	3		
		79.2%	8.3%	12.5%		
	②⑤ 移行支援として、保育所や認定こども園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・交流保育などで情報交換を行っている。 ・必ず直接相手園まで行き、情報共有を行うようにしている。 ・就園先への情報交換、現在行っている支援の申し送りはできている。 ・支援計画などの情報提供も保護者の方々の同意を得て相互理解を図っている。 	
		100.0%	0.0%	0.0%		
	②⑥ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の説明会の機会に年長児と保護者に積極的に参加してもらっている。 ・必ず直接就学先の学校まで行き、情報共有を行う。 ・見学なども実施している。 	
100.0%		0.0%	0.0%			
②⑦ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し、長期間研修に参加すると内容をつかめるのでは？ ・毎年各園ごとに当番を決め公開療育を行っている。 ・他事業所の研修会に参加。 		
	95.8%	4.2%	0.0%			
②⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	22	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・交流保育を行っている。 ・複合型の事業所であるため、隣接して企業主導型保育園がある。行事等で交流を行っている。 ・交流保育を実施している。 ・事業所内保育所はあるが、あまり交流といった機会は少ない(行事は一緒に行う)。 ・交流保育の実施、園外活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園、幼稚園との交流(天使園に相手側が来園)を考えていきたい。 	
	91.7%	4.2%	4.2%			
②⑨ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	20	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回参加。 		
	83.3%	16.7%	0.0%			

③①	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	23	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・月3回ST、保育士個別で相談する。電話連絡もその都度行っている。 ・保育士個別に来てもらい状況を知ってもらい今後のことを話したりしている。 ・連絡帳の記入、電話連絡、家庭訪問など。 ・保護者との話は出来ているが、お互いが共通理解できているかは・・・?と感ずることもある。丁寧に対応していくこととしている。 	・今以上、家庭支援などの活動を積極的に取り組んでいきます。	
		95.8%	0.0%	4.2%			
③②	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問で園での関わり方を実際に保護者にお見せするとその日からトイレ誘導がスムーズになったという声を頂いた。 ・研修への参加。保護者への勉強会を事業所内で実施。 ・保育士の個別、ST、ポータージプログラムなどでもペアレントトレーニングを行っている。 ・毎月3回、1時間の個別(ST1時間、保育士2時間)、年回6回のおはなし会(勉強会)の実施 		
		100.0%	0.0%	0.0%			
保護者への説明責任等	③③	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際に細かく説明している。 ・入園時に行う。 	
			100.0%	0.0%	0.0%		
③④	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン一つの項目に目を通してもらいながら、説明をしている。(保護者にもガイドラインをコピーして持っていたらいい) ・年度初めにアセスメント、前年度のモニタリングの実施。4月に支援計画書の作成(前期)、9月にモニタリングを実施。10月に支援計画書を作成(後期)。翌年3月末にもモニタリング実施。その都度同意説明を行っている。 		
		100.0%	0.0%	0.0%			
③⑤	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を開いたりして、親の困っていることなどを聞く機会や学びあえる場を作っている。 ・クラスリーダー、児発管、園長を中心に、相談内容を支援者で話し合い、最善の利益となるように話している。 ・保護者の悩み等は職員間で話し合い、担当だけではなくリーダーからも助言している。 ・連絡帳、電話連絡、家庭訪問等の実施。 		
		100.0%	0.0%	0.0%			
③⑥	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	22	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の勉強会、同じく保護者交流会。卒園生の会もある。 ・保護者総会などを行った後、保護者同士が育児の相談が出来る場所を提供し意見交換ができるようにしている。 ・保護者総会等。お話し会終了後、エンジェルカフェの実施。 		
		91.7%	8.3%	0.0%			
③⑦	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談があった場合は即対応を心掛けている。 ・相談があった際には、内容によっては家庭へ伺い、相談支援専門員にも声を掛け対応している。 ・他機関等の調整も行っている。 		
		100.0%	0.0%	0.0%			

	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回発行。 ・月に1回、「天使の輪だより」を発行。 ・天使の輪だより、MACメールなどを使用し、情報の発信に努めている。 	
			100.0%	0.0%	0.0%		
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・項目を細かく設定し、同意を頂いている。 ・個人情報取り扱い同意書の文書作成。外部への情報提供などにおいてはその都度保護者に確認をし、同意後情報提供としている。 ・事業所以外に情報を持ち出さないようにしている。 	
			100.0%	0.0%	0.0%		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援から始まり、育てにくさ、しんどさを抱えている保護者に対するできる限りの家族支援を行っている。 ・個人、家庭訪問、全体等個々に合った伝達の仕方をしたり、保護者の意見交換会を行ったりしている。 	
			100.0%	0.0%	0.0%		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・講堂、園庭の解放など。 ・はばたきバザール等。 ・同法人成人事業所のバザーなどに参加。 	
			95.8%	4.2%	0.0%		
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	22	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に年度初めに説明、配布している。(各机にて保管) ・各クラスに配備されている。 ・各マニュアルを教室に配備、それに基づき毎月1回訓練などの実施(引き渡し訓練、年1回の実施) ・子ども向けの防犯訓練が少ない。 	
			91.7%	4.2%	4.2%		
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	23	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回実施している。 ・月1の避難訓練実施。 ・月に1回避難訓練(地震、火事、台風、不審者など)。 ・毎月行っていく中で時間を図り慣れていくことで少しでも早く避難できるよう、取り組んでいる。 ・各マニュアルを教室に配備、それに基づき毎月1回訓練などの実施。 ・火災想定は行えているが、水害に対する訓練は行えていない。 	・今年度3月に水害訓練を実施予定。
			95.8%	4.2%	0.0%		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の中でてんかん発作を見たことがない人もいると思うので、学ぶ機会が必要だと思います。 ・アセスメントをとる段階で保護者に確認する、場合によってはかかっている病院とも連携する。 ・てんかん等の研修会に参加。 	
			100.0%	0.0%	0.0%		
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、看護師、栄養士、調理員、直接処遇職員で情報を共有している。 ・アレルギー品目ごとに、一覧表を作成(栄養士) 	
			100.0%	0.0%	0.0%		

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットは最低3日間朝礼で報告し、聞いていない職員がいないようにしている。 ・どんな小さいことでも、大きな事故に繋がるということで、恥ずかしいことではなくその逆でみんなに周知することで、同じことが次に起こりにくくなるという視点から積極的に作成している。 ・こまめに記入して掲載して職員全体に把握できるようにしている。 ・ヒヤリハットが出た際、決められた日数の間周知し、ファイルに保管してある。 ・事例や解決策を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故報告書も作成し、委員会も設置しています。その都度検証を行い、重大事故などにおいては緊急の再発防止委員会を開き事故防止に努めています。
		100.0%	0.0%	0.0%		
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	24	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に参加させてもらい、それを事業所内に持ち帰り園内でも研修の機会を作っている。 ・研修に参加し、その参加した人が事業所内研修として虐待防止研修を行う。虐待防止委員会の設置。 	
		100.0%	0.0%	0.0%		
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	21	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の同意、説明、記録への記載。 ・各種マニュアルにある身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト、経済的虐待。 ・マニュアルの中に明記されている。 ・マニュアルに沿って行う。不定期に話し合う機会を設けている。 ・身体拘束をする場合は同意書にサインを頂くシステムを作成している。 	
		87.5%	4.2%	8.3%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。